

## 【 道路愛護ポスター 審査員総括 】

道路は、通勤・通学・物流など、さまざまな社会活動にとって、最も身近で重要な公共施設です。

この道路を、美しく安全でしかも快適に利用できるよう、日々、国や県が維持管理を行っていますが、すべてを完全に実施することはかなり困難なことです。道路を取り巻く地域住民やドライバーたちの理解、協力が不可欠です。

道路環境では、一部の心無い人たちによるゴミや空き缶などの不法投棄などにより、地域住民が不快な思いをすることや交通事故へと発展することもあり、大きな問題と考えられます。そのような中で多くの町内会やボランティアの人たちが、定期的にゴミや空き缶などの回収・清掃や花木の植栽などの環境美化活動に汗を流していただいています。

今年は、能登半島で発生した地震や豪雨などによって、生命線である道路があちこちで寸断され、人々の生活に甚大な打撃をもたらしました。現地の早い復興を強く願うばかりです。災害大国日本、いつでもどこでも災害は起こりうる可能性があります。道路の役割や重要性、ありがたさなどを改めて認識した方々も多いと思います。

さて、毎年8月に実施される「道路ふれあい月間」運動では、地域住民の花壇整備、歩道清掃等の道路愛護に係るボランティア活動などを通じた道路愛護精神の高揚を図るとともに安全に利用する気運を高めることを目的として、道路交通の安全と道路の正しい利用の促進を図ることを大きな目的としています。

この「道路ふれあい月間」の趣旨を受け、審査にあたっては、道路愛護ポスターの大きなねらいである、「道路が人々の生活にとって欠くことのできない重要な役割を果たしている」ことを子どもたちの視点でどのように表現しているのかを中心に審査をさせていただきました。

今年は、県内小学校16校から45点の作品が寄せられました。応募点数が少ない中であっても、特に受賞作品は、子どもたちが考える道路の大切さや道路を取り巻く環境の中で楽しく生活する人たちの姿などが印象に残る作品が数多く見られました。

そのような中で、最優秀賞に輝いた佐賀大学教育学部附属小学校1年生の橋詰桃子さんの作品は、「なかよくつかおうみんなのみち」のコピーライトで、道路を行き交う業務車両や横断歩道を渡る子どもからお年寄りまで描き、道路の役割や不可欠さを端的に表現しました。植栽された色とりどりの花々や憩いの場である町の公園も描き、道路を囲む環境を大切にしている雰囲気伝わります。レタリングも明るくカラフルに桃子さんの気持ちが伝わってきます。

続いて、優秀賞に輝いた4点を紹介します。

諸富南小学校1年生の泉晴遥さんの作品は、整備された縦横に走る道路沿いに展開する公園やお店などの中に、今にも笑顔あふれる子どもたちの笑い声が聞こえてきそうです。色彩も明るく生き生きと表現し、子どもらしさにあふれています。

佐賀大学教育学部附属小学校3年生の橋詰桜子さんの作品は、「人と人をつなぐ大切な道」のコピーライトで、道路が中心から大木の枝のようにシンメトリーに広がり、学校やお店、郵便局などにつながる道路の大切な役割を見事に表現しました。桜子さんは昨年度優秀賞に続き3年連続受賞に輝きました。

佐賀大学教育学部附属小学校5年生の橋詰武さんの作品は、「ありがとう道路はくらしの大事なピース」のコピーライトで、道路の果たす役割を一つひとつのピースとして克明に描写し、それぞれが欠けてもいけない大事な役割であることを訴えています。武さんの豊富なアイデアには驚かされます。武さんは3年連続最優秀賞受賞に続く快挙を成し遂げました。

三里小学校6年生の森永玲夷さんの作品は、武雄市東川登町にある「新幹線」、「高速道」、「国道」の3つが交差する全国的にも珍しい観光スポットが描かれています。コピーライトはありませんが、それぞれの道路の果たす役割が十分に伝わってきます。玲夷さんも昨年度優秀賞に続き2年連続受賞に輝きました。

最後に、子どもたちへの「道路愛護」精神の普及と道路愛護活動への理解と広がりをお願い、そして、子どもたちの願いのこもったすばらしい作品を今後ますます期待し総評とします。